

総務常任委員会資料 2

(1) 宝塚市総合教育会議の招集権者として、教育行政の課題をどう認識されていますか

総合教育会議の招集権者として、私が考える教育行政の大きな課題は3点あります。

1点目は、子どもに寄り添った課題解決ができる教職員の育成です。

教育現場における課題は多様化、複雑化しており、学校だけで対応することが困難なものもあります。外部人材の識見を取り入れる等、教職員が自ら課題を解決できる力を付けていくことが必要であると考えています。

2点目は、様々な体験、学びによる生きる力の育成です。

学校での授業以外にも、校外学習、環境学習、地域活動や社会教育の充実など、子どもたちの豊かな体験につながる取組が大切だと考えています。

3点目は、地域のまちづくりとの連携です。

例えば、コミュニティ・スクールの推進や部活動の地域移行等は、地域の皆様の力をお借りしながら進める必要があります。教育委員会だけでなく、市長部局も一緒に考えていく必要があります。

以上のような課題に対応するため、私が市長に就任してからも、弁護士などの専門的な知見を取り入れ、教職員のスキルや知識を育成して子どもに寄り添った解決を目指すためのスクールロイヤーの登用や、子どもの自己肯定感や表現力を育む演劇的手法を取り入れた授業をすべての小学校へ拡充することなど、取組を進めてきました。

これからも総合教育会議で課題を共有しながら、市と教育委員会で連携して教育行政を推進していきます。

(2) 市長として宝塚の教育行政のあるべき姿をどう考えておられますか

これからの学校には、子どもたちが変化する社会を生き抜く力を身につけられるなど、様々な学びの場であることや、子どもたちを育むためさらに地域社会と一体となること、子どもたちを取り巻く様々な課題に、市全体で対応するため、様々な主体との連携を強めることなど、多様な役割が求められていくと考えています。

そのためには、学校を今まで以上に開かれた場とし、風通しが良く、教職員が、熱意をもって教育活動に向き合える環境を作っていくことが必要です。

そのために、各学校においては校長がリーダーシップを発揮し、働き方改革を推進するとともに、教職員の資質向上に鋭意取り組まなければなりません。

